

## 臨床研究概要

整理番号 10-2-05

### 研究課題名

冠動脈疾患における血流依存性血管拡張反応(FMD)を用いた動脈硬化の評価と各種パラメーター測定の有用性

### 目的

冠動脈疾患が疑われ入院となった患者の非侵襲的検査値[血流依存性血管拡張反応(FMD)と脈波伝播速度(PWV)]や各種バイオマーカー値の違いを分析し、その意義について検討する。さらに、冠動脈疾患を有し、経皮的冠動脈カテーテルインターベンションを施行した患者においては、約6~9ヶ月後再び上述の違いを分析し、その意義について検討する。

### 適格基準

対象疾患：冠動脈疾患を疑われ、当院へ入院し冠動脈造影検査を実施予定で、同意の得られた患者。経皮的冠動脈カテーテルインターベンションを実施した患者は約6~9カ月の確認冠動脈造影目的に入院した際、同様に検査の同意を得たと同時に、この臨床研究についても再び同意が得られた患者。性別：問わない。年齢：20歳以上。文書による患者の同意：あり。

### 方法

一般血液検査および特殊検査、非侵襲的検査(脈波伝播速度、Cardio Ankle Vascular Index、経胸壁心エコー検査、Flow Mediated Dilatation、頸動脈内膜中膜複合体厚検査)は冠動脈造影法検査前および6-9ヶ月後に実施する。

### 評価項目

主要評価項目：冠動脈疾患の有無による非侵襲的検査値の差異(今回、約6~9ヶ月後および今回と約6~9ヶ月後の比較)。冠動脈疾患の有無による各種バイオマーカー値の差異(今回、約6~9ヶ月後および今回と約6~9ヶ月後の比較)。

副次的評価項目：冠動脈疾患の有無による一般検査値の差異(今回、約6~9ヶ月後および今回と約6~9ヶ月後の比較)。

目標症例数：200例

試験期間：2009.2.1-2017.3.31

協力病院：なし